

## 環太平洋経済連携協定（TPP）第18回交渉会合（マレーシア会合）

政策企画局政策企画監室

### 1 マレーシア会合及び交渉の全体像

- (1) 会 期 : 7月15日(月)～7月25日(木)
- (2) 場 所 : マレーシア・コタキナバル
- (3) 参加国 : アメリカ・オーストラリアなど先行11カ国に加え、23日(火)午後からは日本も参加することとなり、計12カ国が参加
- (4) 作業部会 : 今回会合では13分野の作業部会を開催。  
日本は、「知的財産」や「環境」、生産国を認定する「原産地規則」など5つの部会に途中参加したものの、関税撤廃・削減を扱う「市場アクセス」関連の作業部会は23日午後の時点では終了しており参加できず。日本に関する集中討議は24日午後及び25日に開催。
- (5) その他 : 日本は、鶴岡公二主席交渉官ら約100人の担当者を現地に派遣。  
交渉参加にあたり、先行各国と同様、TPP交渉事務局のニュージーランドの担当者と日本の主席交渉官が守秘契約を締結。

### 2 今回交渉会合の声明骨子

- (1) 日本を12番目の環太平洋連携協定（TPP）交渉国として歓迎。日本は積極的に交渉会合に参加
- (2) 今回会合で市場アクセスなど13分野を議論。進展があったが、追加作業が必要な論点が依然多い。交渉はより困難な課題に対処する段階に差し掛かっている
- (3) 工業品と農産品、繊維の市場アクセス分野で、交渉加速のための作業計画で合意。知的財産権、環境、国有企業の各分野で進展に向けた方策を模索

### 3 鶴岡主席交渉官の会見要旨

- (1) 交渉参加の評価
  - ① 今回のTPPの交渉参加で具体的な公式文書を手にしたが、内容を見る限り、これまでの準備との間に大きな乖離（かいり）はない。
  - ② 重要で困難な案件は各国間で議論に相当開きがあり、日本が実質的議論に加わることはまだまだ可能だ。
  - ③ 日本の参加によってTPPの市場規模が大きく膨らむ。先行11カ国から歓迎を受けた。
  - ④ （関税撤廃の例外扱いをコメなど重要農産品で求める）日本の立場を知らない交渉官は一人もいない。それは確認した。
- (2) 今後の交渉対応
  - ① 国内の関係者で一致した見解を共有することが重要。情報共有は一定の制約下に置かれているが、一丸となって交渉に取り組む態勢をつくり上げたい。
  - ② （交渉で日本に）厳しい遅れがあることは客観的事実。次回会合では他国に後れを取らないところに到達したい。時間は非常に厳しい。内容的にも目標が高い、非常に厳しい交渉だ。